

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2016年度 第2号

いよいよ夏です。

当研究所の職員の日々の仕事は、農業者の皆さんと同じように、トマトやホウレンソウを管理し、調査の後出荷したり、畦畔の草を刈ったりと、暑い中熱中症に注意しながら研究する毎日です。

さて、今年も8月に中間検討会を開催します（詳細は最終記事をご覧ください）。

研究所がどのような研究を行っているか知りたい！！ 作物の生育状況を実際に見てみたい！ など興味がありましたら、ぜひご参加ください。

今年度の新しい研究として、エゴマやスクナカボチャの機能性成分関連の課題や、ナスの袋栽培による省力多収穫技術の課題があります。ご来所をお待ちしています。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

● ホウレンソウの機械化一貫体系の確立を目指して

飛騨地域は夏ホウレンソウの大産地で、夏場を中心とした直播きによる連作技術体系は概ね完成しています。また、収穫機等の導入により機械化が進んでいますが、最終段階の調製作業は未だ手作業で行われています。

そこで、生産者の高齢化や、地域内での雇用労働力確保が課題となってきたため、昨年度から農研機構農業技術革新工学研究センターと連携し、調製作業の機械化を図るため、本県の夏ホウレンソウに適合した調製機の開発に取り組んでいます。

【本所野菜担当 中西 文信】



研究開発中のホウレンソウ調製機

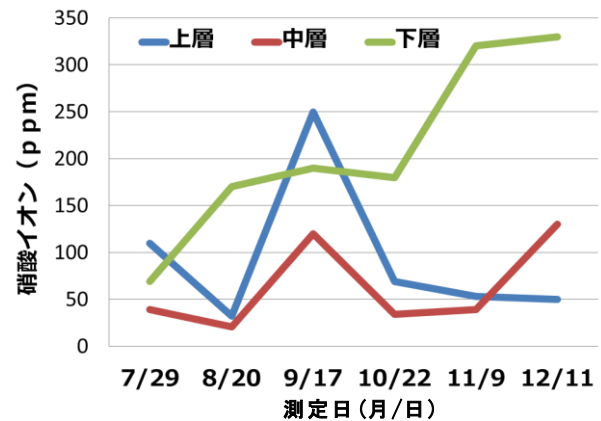
シクラメンの液肥による底面給水栽培

シクラメンの省力・低コスト栽培を目的に、慣行の錠剤肥料に替えて液肥を底面給水させる技術の開発に取り組んでいます。これまでに、液肥の常時施用により生産は可能なものの、根が褐変し花もちが悪いことがわかっていました。鉢内部位（上層、中層、下層）別に土壤溶液を採取し養分を調べることにより、鉢内下部の高い養分濃度が根痛みの原因であることが判明しました。

【支所花き担当 浅野 正】



液肥栽培シクラメン（左）と根の褐変（右）



鉢内の土壤溶液中硝酸イオン濃度 (H27)

研究員による地域への技術支援

当研究所では研究員自らが、行政関係者や指導機関、生産者の皆さまに対する開発技術の直接指導や、指導機関と一緒に現地に出向いての調査等を行ったりしています。

例えば、クリの研究を行っている中津川支所では、近年の栽培開始園で深刻な凍害発生を抑制する新対策技術の普及や現地での効果調査、経験の浅い生産者の技術習得のための研究所内での栽培指導などを行っています。

この他に講習会等に出向いての出前講座も行っていますので、ご利用ください。

【支所長 鍵谷 俊樹】



クリ凍害抑制新技術の効果調査の様子



クリ新規栽培塾で施肥指導する研究員

今年も中間検討会を開催します。関係者の皆様はぜひお越しください。

生産者や農業関係者の方々に、今の季節しか見ることの出来ない、試験ほ場の作物の実際の生育の様子をご覧いただきながら、本年度の研究内容や進捗状況について担当者から説明します。

◆本所(古川)：8月25日(木) 13時30分～

◆中津川支所：8月9日(火) 13時30分～



©岐阜県